

人とのつながりについて

JA北海道厚生連札幌厚生病院 初期研修2年目
ひらの ゆうすけ
平野 雄介

初めまして。JA北海道厚生連札幌厚生病院初期研修2年目の平野雄介と申します。旭川医科大学を2022年に卒業いたしました。初期研修2年目ということもあり、今後の進路を見つめながら、昨年よりも充実した日々を送っております。

この度は研修医1年時の先輩でもあり、公私ともに親しくさせていただいております志賀直樹先生よりご紹介いただき、エッセイ執筆の機会をいただきました。志賀先生は今年度から専攻医1年目であり、初期研修時代よりもさらに熱心に日々の医療に向き合っておられ、普段から多くの刺激を受けております。

エッセイ執筆のお話をいただいた時に、テーマは自由ということは何を書くべきか大変迷いましたが、最終的には自身が今までに経験してきたことが一番書きやすいと考え、人とのつながりをテーマに書かせていただきたいと思います。

まず私は医学部に入学するまでに高校卒業から数えまして4年ほどかかりました。高校時代は進路としまして、公務員を第一に考えていたために受験勉強にそれほど時間を割いておりませんでした。高校3年時になってから、当時の友人の影響もあり医療系の仕事に興味を抱き、その中でも医師という職業を選択したわけではありますが、大学に入るまでに勉強だけではなく様々な紆余曲折がありました。大学入学時の私はこの4年という期間をマイナスなものとして捉えていたように思いますが、今となってはそこまで悲観するような期間ではなかったのかもしれない。といいますのも、今回のエッセイテーマにありますように4年間の間に様々な方と出会い、その出会い・経験が今になって役立ち、有意義な研修を送ることができているからです。

当時診療放射線科に通っていた方と出会う機会があり、その後も親しくさせていただいておりました。その後偶然にも札幌厚生病院で再会することができたわけではありますが、研修医になりたての私は大変未熟でしたので、CT・MRIのオーダーもまともにできず大変苦労しておりました。上級医の先生にご相談したいところではありましたが、ご多忙な方が多く頻回にご相談することはできませんでした。そ



小樽市出身。小樽潮陵高校卒業。旭川医科大学を卒業し、現在はJA北海道厚生連札幌厚生病院にて初期研修2年目となります。高校時代は野球部、大学時代はアイスホッケー部に所属しておりました。

ここで白羽の矢が立ったのが彼なのですが、終業後に放射線技師の方々のところに足繁く通い、オーダー方法や撮影条件、CT・MRIの読影まで教えていただきました。技師の方々が教えてくださる内容は、大学ではほとんど勉強しなかった範囲に及んでおり、国家試験を終えたばかりの新人研修医よりも遥かに多くの専門知識を持ち合わせており大変勉強になりました。また、勤務している病院は異なりますが、栄養士の方ともご縁がありましたので病棟での栄養管理方法や糖尿病患者への栄養指導内容など、日々の業務で疑問に思ったことを質問させていただくことができました。

私がこの拙い文章でお伝えしたかったことは、様々な職種の方とのつながりは今後の仕事や人生において多くの刺激と経験につながるということです。皆様ご多忙かと思いますが、医師・看護師に関係なく時間があるときに気軽に話や相談ができる相手を見つけ、関係を深めておくことも大切かもしれません。私が大学5年生から初期研修医1年目までの3年間は新型コロナウイルスが猛威をふるい、友人や家族にも容易に会うことができなかつた期間であり、人が集まること自体が自粛されておりました。現在は少しずつ昔の日常を取り戻しつつあるように思いますが、1日も早い新型コロナウイルスの終息を願い、気兼ねなく人が集まれる世の中に戻ることを願っております。

最後までお読みいただきありがとうございます。エッセイ執筆という大変貴重な機会を与えていただき大変嬉しく思います。次の方へバトンをつなぎたいと思います。